



# 第2期岐阜市次世代育成 支援計画のパブコメ始まる

1月15日から「第2期岐阜市次世代育成支援対策行動計画（案）」のパブリックコメントが始まるので、計画概要版を頂きました。計画策定趣旨には、「全国的に少子化傾向にあり、就労人口の減少、社会保障負担の増加等、社会経済への深刻な影響が懸念されています。」「国の子どもの貧困率は先進国の中でも高い水準にあり、18歳未満の子どもの6人に1人が経済的に困窮しているといわれています。」と記載され、「子どもや若者、子育て家庭を社会全体で支え、子どもを生み育てることに喜びを実感でき」「子どもや若者が健やかに成長できる環境を整える」ために計画を策定するとしています。

## 育児休法の署名運動・・・社会問題は経済問題として集約出来る

私たちが「育児休業」制度の法制化を求めて、署名活動をしていた時は、実感がなかなかつかめないうちでの運動でした。現在は娘の世代が育休を取っています。利潤追求一辺倒の資本主義の結果が「社会経済への深刻な影響」（計画策定趣旨）を生み、その資本主義が「社会の存続の懸念」を訴えている。皮肉なことです。

富の再配分を何処までできるか？ 少子化は全国的なことですが、都市政策の違いによって、人口の大移動を促し、あまり好きな言葉ではありませんが「勝ち残れる」都市として、キラリと輝けるか？ 行政手腕の問われるところです。

## 年収〇〇〇万円超えないと、結婚できない・・・しない・・・

どんな本か忘れましたが、以前、カップルで年収〇〇〇万円無いと、「結婚しよう」という気にならない。と読んだ記憶があります。好き嫌いは人の感情ですが、生活は経済が土台です。市役所出入りの業者に、だいぶ前ですが「岐南町は子ども医療費無料なのに、なぜ、岐阜市は無料でないのか」と言われた事を思い出します。自治体が地域内で働く全員の賃金を直接引き上げるのは難しいが、社会支援制度として夫婦の年収を支援し、可処分所得を上げることは出来ます。

「貧困」問題を語る以前に、昔、小学校の教科書は個人でお金を払っていました。今は無料が「あたりまえ」となりました。義務教育なら、給食費は無料が当たり前の時代です。家庭で食事を取れない子ども対策としての別の意味も付加されました。保育制度、6年早期実施学童保育など、富の再配分への決意の問題です。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

## 妻の賃金は、子ども2人の保育料でなくなった

松原のりかずの妻は民間企業で正規労働者でしたが、女性賃金は安く、子ども2人が保育所通いの時は、当時長時間保育も充実していなくて、近所の人に二重保育をお願いしていました。妻の賃金は全て保育料でなくなっていました。産休あけも、友人のお母さんに保育をお願いした時代でした。子どもが熱を出せば、どちらが休むかで「相談」を常にしなければなりません。それでも、まだ生活条件は良いほうだったと思います。

格差の拡大は進み、少しばかりの支援では、人間らしい子育て環境とはなっていない多くの課題があります。

## 新春学習会に参加「動き出している戦争法・秘密保護法」

本年11日の出初式は、お天気に恵まれ、とても暖かい日となりました。会場で整列されてみえる団員の皆様をはじめ、ご参集の皆様とお天気の話が多く出たところです。

松原のりかずは、出初式の日、午後からは新年早々の勉強会に参加しました。岐阜県女性の会主催の新春学習会、会場は市民会館で150名ほどの参加でした。岐阜県弁護士会の岡本浩明弁護士の講演で秘密保護法の概要や、立法の経過と問題点等について勉強させて頂きました。

戦争法の前段準備としての秘密保護法の制定。公務員の守秘義務どころではない、国民全体を縛る秘密保護法の危険性の講演は1時間半が、あっという間でした。そして、「憲法改正（改悪）」阻止を1年間闘って、「わたしたちは阻止しているのだとの分析もできる」「政権の改悪予定は、本当はもっと速かった」との講師の情勢分析。「自信を持って、平和憲法を守る運動を強化しましょう」との呼掛けには、参加者の大きなうなずきがありました。



松原のりかず

☎058-253-2500